

子どもの体力・運動能力向上について

第11回総合教育会議
企画部スポーツ振興課
教育庁保健体育安全課

1 計画の趣旨・位置付け

■ 趣旨

平成25年3月に策定した「宮城県スポーツ推進計画」が今年度終期を迎えることから、これまでの理念を継承し、将来の本県スポーツのあるべき姿や目標を定め、その実現に向けて取り組むべき施策を明らかにする、「第2期宮城県スポーツ推進計画」を策定するもの。

■ 位置付け

スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」を参酌して策定する「地方スポーツ推進計画」として位置づけます。また、「新・宮城の将来ビジョン」を踏まえた部門別計画として、関連する計画との連携を図りながら、本県スポーツの推進に向けて取り組むべき方向性を示します。

2 スポーツを取り巻く現状

■ 現状

- ・ 成人の週1回以上のスポーツ実施率は全国値より低く、特に女性が低下している
- ・ 「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合」は全国値を上回っている
- ・ 総合型地域スポーツクラブ未設置市町村がある
- ・ 人口減少や少子高齢化によりスポーツ活動の担い手が不足している
- ・ 県民が障害者スポーツに関わる機会が少ない
- ・ 在留外国人数が増加傾向にある
- ・ 国民体育大会総合成績は、平成23年度以降20位以下と低迷
- ・ スポーツに関わる者全員がコンプライアンスに関する意識を高める必要がある

■ 現状（子ども）

- ・ 小学5年生、中学2年生を対象とした「体力・運動能力、運動習慣等調査」では、中学2年男子を除き、体力合計点が全国値を下回る状況が続いている
- ・ 小・中・高校の各年代で肥満傾向児の出現率が、ほぼ全国値を上回る結果にあり、特に小・中学生において男女ともにその傾向が顕著
- ・ 近年、運動部活動について、深刻な少子化に伴う持続可能性や教員の負担軽減などが課題となっており、国の検討会議において、中学校等の運動部活動の地域移行の方針が示され、その在り方が大きく変わろうとしている

3 課題とその解決に向けて

「第2期宮城県スポーツ推進計画」の策定に当たり、これまでの取組の検証や、本県におけるスポーツの現状を総合的に勘案し、本県の課題を次の4つにとりまとめ、その解決に向けて施策を展開します。

■ 課題1：生涯を通じた健康づくり

あらゆるライフステージにおける、運動習慣の定着と、スポーツによる健康づくり

■ 課題2：特色あるまちづくり

地域の資源や特色を生かした、スポーツを通じた地域の活性化の取組

■ 課題3：共生社会の実現

多様な主体が年齢、性別、障害の有無、国籍等に関係なくスポーツに参画できる環境づくり

■ 課題4：競技力の向上

アスリートの発掘・育成・強化、指導者の育成及び資質向上

4 基本理念・目指す姿・施策の展開

■ 基本理念

「スポーツの力でひらくみやぎの未来！」

■ 目指す姿

全ての県民があらゆるライフステージにおいてスポーツに親しみ、ともに活動することで、「人と人」、「地域と地域」のつながりを感じ、スポーツの価値を共有しながら夢と希望に満ちた生活を送ることができる活力ある「みやぎ」を目指します。

■ 施策の展開

本計画では、基本理念として掲げた「スポーツの力でひらくみやぎの未来！」のもと、4つの基本方針に掲げる目標の実現に向け、具体的な施策に取り組みます。

その際、それぞれの基本方針が完全に独立したものとして捉えるのではなく、方針が相互に密接に関連し合いながら連携・協働することにより、好循環が生み出されるように施策を展開します。

基本方針1 スポーツによる健康増進

■ 目標

- ・20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率60%（障害者は35%）
- ・小学5年生・中学2年生の体力が全国水準を上回る
- ・「自分は健康である」と感じている人の割合が95%
- ・総合型地域スポーツクラブの県内全市町村への設置

■ 施策

- 1 子どものスポーツ機会の創出
- 2 働く世代・子育て世代のスポーツ機会の創出
- 3 高齢者のスポーツ機会の創出
- 4 スポーツを支える環境の整備

基本方針3 スポーツによる共生社会の実現

■ 目標

- ・障害者スポーツを「する」「みる」「ささえる」のいずれかの活動を行ったことがある人の割合が25%
- ・女性の週1回以上のスポーツ実施率50%
- ・スポーツをすることが好きと感じる人の割合が50%
- ・多様な主体によるスポーツコミュニティの形成

■ 施策

- 1 障害者スポーツの環境整備と普及促進
- 2 女性のスポーツ参画人口の拡大
- 3 多様な主体によるスポーツコミュニティの形成

基本方針2 スポーツによるまちづくり

■ 目標

- ・県民の地域スポーツ行事・活動への参加割合が50%
- ・総合型地域スポーツクラブの県内全市町村への設置
- ・地域スポーツ活動を気軽に行うことができるような情報発信環境の整備

■ 施策

- 1 スポーツ通じた地域コミュニティの活性化
- 2 スポーツの持つ力を生かした地域の活性化
- 3 スポーツ施設の利用促進によるスポーツ参画人口の拡大

基本方針4 スポーツによる感動の創出と誇りの醸成

■ 目標

- ・国民スポーツ大会総合成績10位台への飛躍
- ・公認スポーツ指導者（競技別指導者）資格保有者数の増加及び維持
- ・オリンピック・パラリンピック等国際競技大会におけるメダリスト、上位入賞者の輩出

■ 施策

- 1 競技スポーツの推進とアスリートの発掘・育成・強化
- 2 スポーツを支える人材の育成
- 3 東京2020大会のレガシー継承
- 4 クリーンでフェアなスポーツの推進

5 施策の展開（子どもの体力・運動能力向上関連）

- 基本方針 1 スポーツによる健康増進
- 目標 小学生・中学生の体力が全国水準を上回る
- 施策 1 子どものスポーツ機会の創出
- 取組内容（一部抜粋）

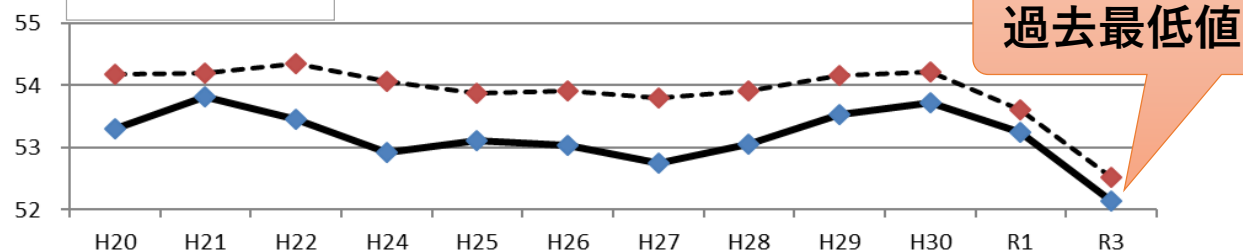
- (1) 幼児期からの運動遊びの普及促進
 県は、幼児期からの運動習慣の定着を図るため、様々な運動遊びを推進するとともに、親子で楽しむことができる運動を通じて、子どもが身体を動かすことを楽しいと感じる機会を拡充します。
 また、保護者に対し、子どもの食生活や運動習慣の重要性について普及啓発を図ります。
- (2) プロスポーツや企業スポーツと連携したスポーツ機会の創出
 県は、プロスポーツチームや企業スポーツチームと連携し、子どもたちを対象としたスポーツ教室の開催や試合観戦などにより、子どもがトップレベルのスポーツに触れ、スポーツの楽しさや感動を実感する機会を創出します。
- (3) 学校体育の充実
 県は、地域スポーツ団体等と連携し、教職員を対象に子どもの健康やスポーツ活動の重要性に関する研修を実施するなど、体育の授業内容の充実及び日常的な体力づくりに向けた取組の充実を図ります。
- (4) 持続可能な運動部活動の環境整備
 県は、中学校等の運動部活動の地域移行に向けたガイドライン等を策定するとともに、各地域における体制構築のため、受け皿となる地域スポーツ団体等の整備・充実や指導者等の確保に係る取組等を支援します。

2 宮城県の子童生徒の体力・運動能力の状況①

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

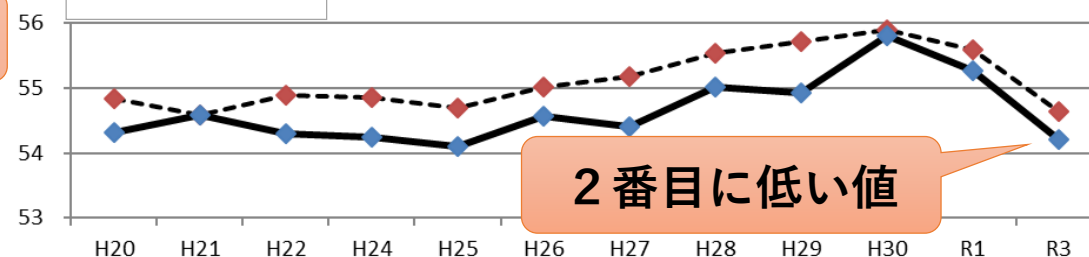
体力合計点の推移

小5 男子



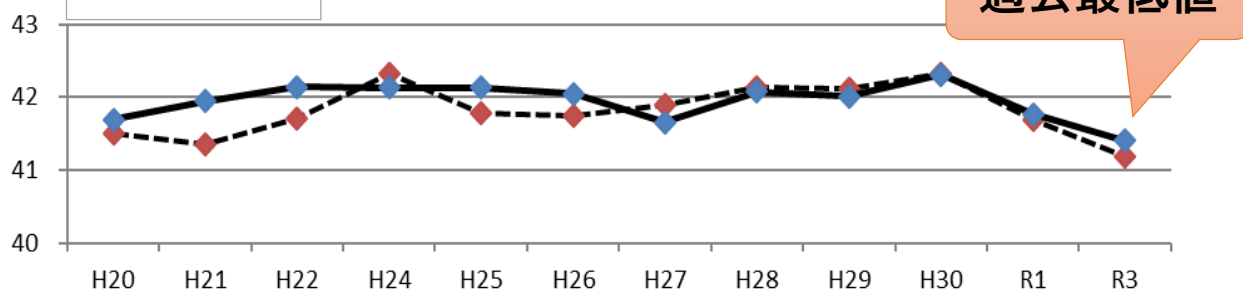
小5男子	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
宮城県全体	53.31	53.82	53.46	52.92	53.11	53.04	52.75	53.06	53.53	53.72	53.25	52.15
全国	54.18	54.19	54.36	54.07	53.87	53.91	53.80	53.92	54.16	54.21	53.61	52.52
順位	36	30	35	41	36	40	42	38	33	34	28	30

小5 女子



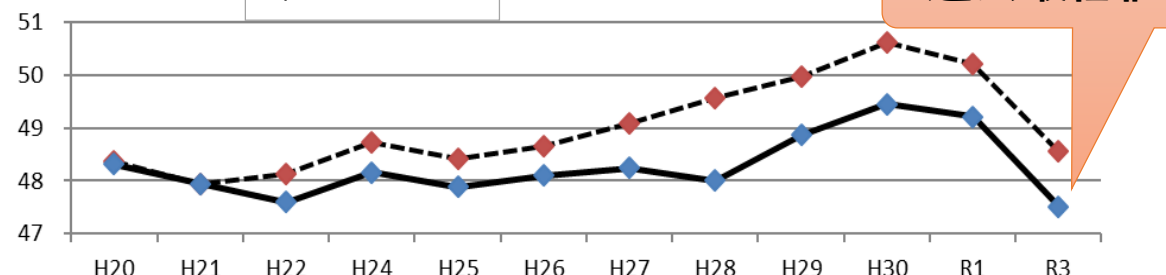
小5女子	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
宮城県全体	54.32	54.58	54.30	54.24	54.10	54.57	54.40	55.01	54.92	55.80	55.26	54.20
全国	54.84	54.59	54.89	54.85	54.70	55.01	55.18	55.54	55.72	55.90	55.59	54.64
順位	31	25	28	32	32	33	37	32	37	31	33	36

中2 男子



中2男子	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
宮城県全体	41.69	41.95	42.14	42.13	42.13	42.05	41.66	42.08	42.01	42.31	41.77	41.41
全国	41.50	41.36	41.71	42.32	41.78	41.74	41.89	42.13	42.11	42.32	41.69	41.18
順位	22	18	17	23	19	21	32	27	27	30	26	31

中2 女子

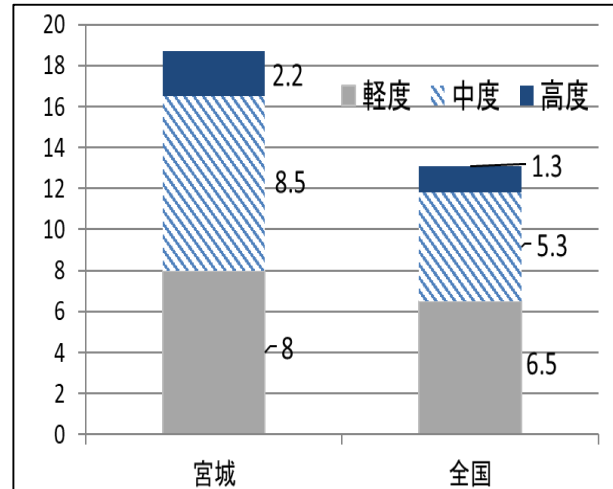


中2女子	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
宮城県全体	48.31	47.95	47.60	48.16	47.89	48.10	48.24	48.01	48.87	49.45	49.21	47.52
全国	48.38	47.94	48.14	48.72	48.42	48.66	49.08	49.56	49.97	50.61	50.22	48.56
順位	24	24	30	27	29	26	34	45	41	39	37	41

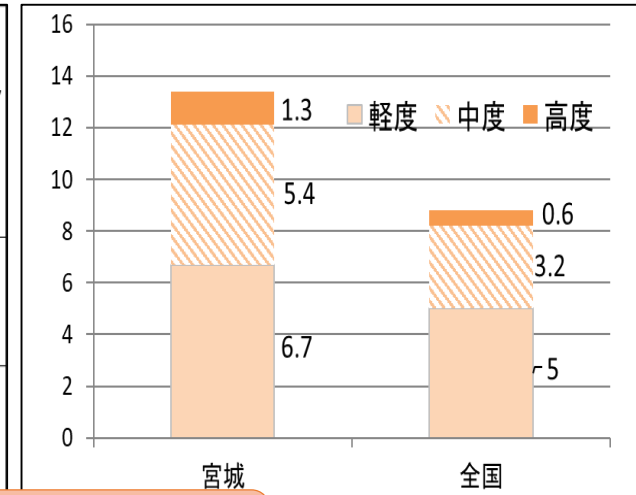
子童生徒の体格と肥満傾向児出現率

※数値は全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果

小5男子	平均値		肥満傾向児出現率 (%)
	身長(cm)	体重(kg)	
宮城県	139.89	36.67	18.7
全国	139.30	35.08	13.1

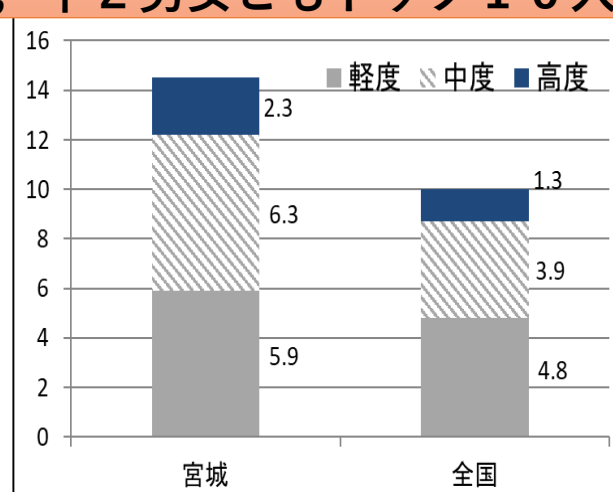


小5女子	平均値		肥満傾向児出現率 (%)
	身長(cm)	体重(kg)	
宮城県	141.62	36.40	13.4
全国	140.91	34.90	8.8

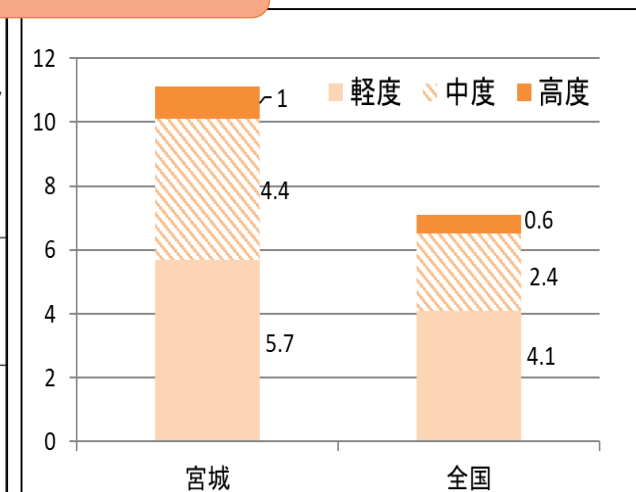


8月発表の保健統計調査の速報値では、身長が男子の小5、中2ともトップ5入り、体重は小5男女、中2男女ともトップ10入り

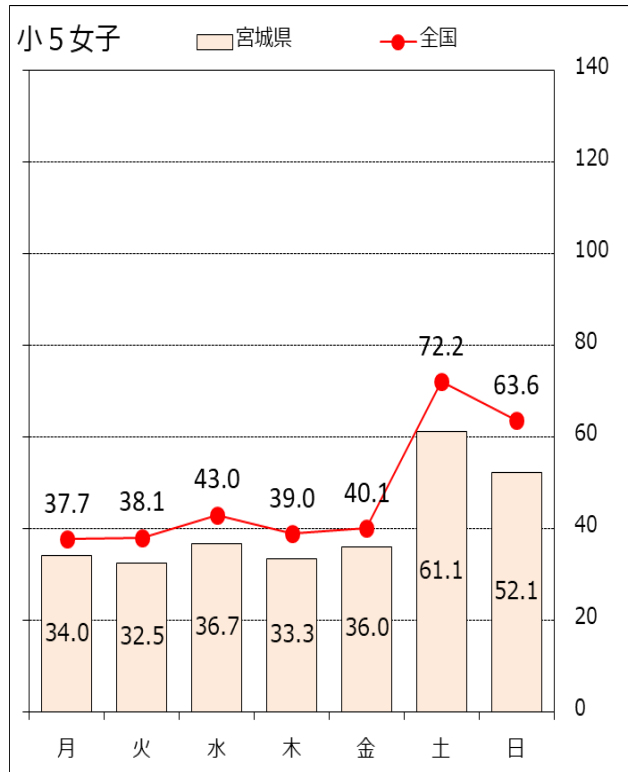
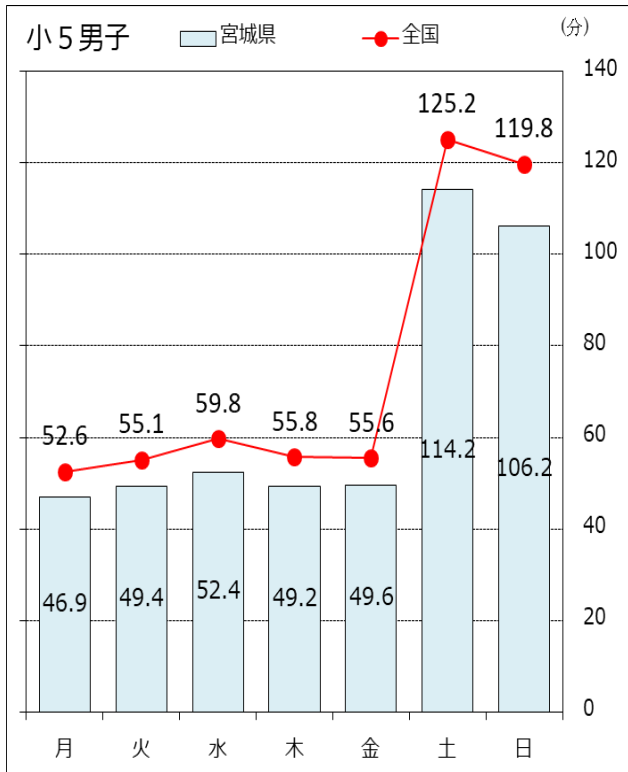
中2男子	平均値		肥満傾向児出現率 (%)
	身長(cm)	体重(kg)	
宮城県	161.00	51.65	12.7
全国	160.67	49.73	8.6



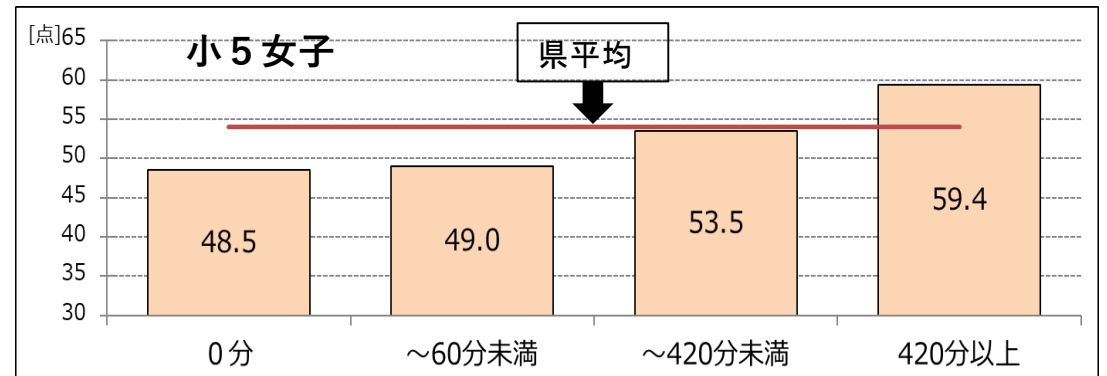
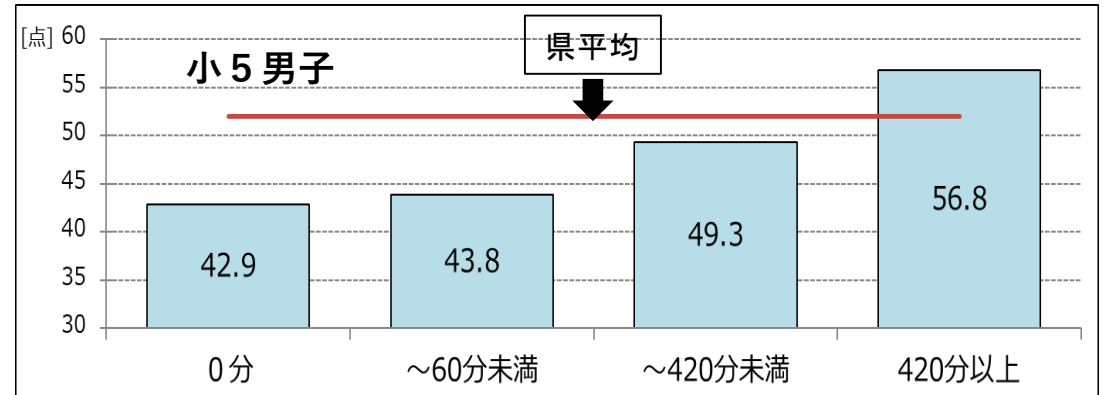
中2女子	平均値		肥満傾向児出現率 (%)
	身長(cm)	体重(kg)	
宮城県	154.73	48.42	11.1
全国	154.93	46.98	7.1



小学生の曜日ごとの運動時間の状況【分】



運動時間と体力合計点の関係



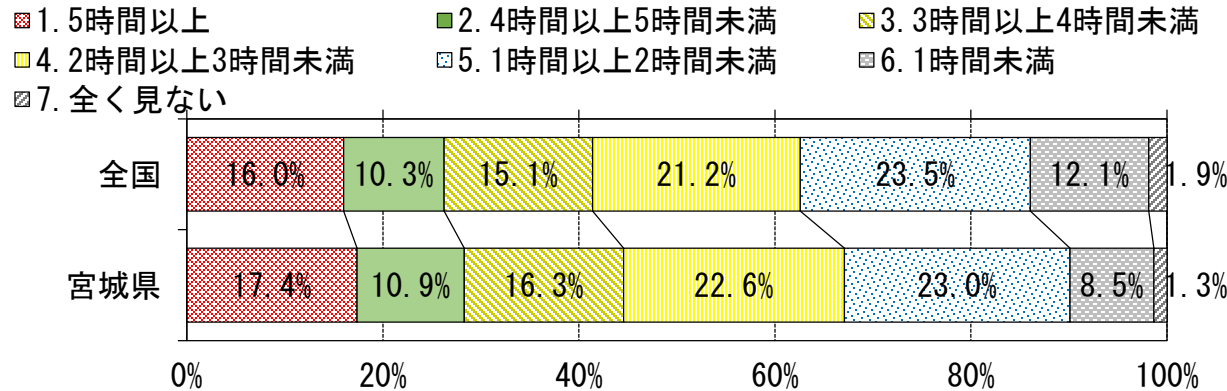
○小5男子においては、平日は5～7分、土日は11～13分程度、全国の平均運動時間より短い。
 ○小5女子においては、平日は4～6分、土日は11分程度、全国の平均運動時間より短い。

運動時間が長い児童は体力合計点が良いという関係が、男女ともにはっきりと結果に表れている。
 ※赤線は県平均

2 宮城県の子童生徒の体力・運動能力の状況④

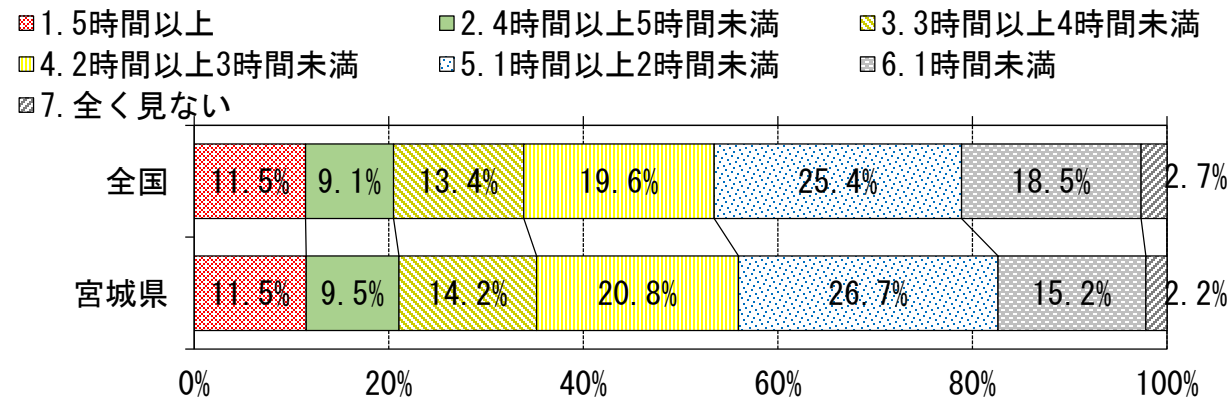
小学生のテレビ、ゲーム等の視聴時間（スクリーンタイム）の状況【平日】

小5 男子



男子は2時間以上の視聴時間の割合が全国平均より高く、差も大きい。女子は長時間の視聴時間の割合は全国との差が少なく、3時間未満が多い。

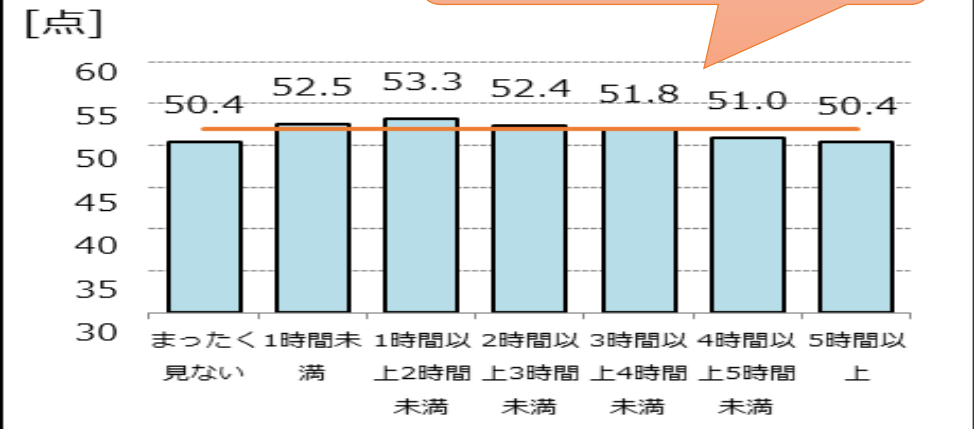
小5 女子



スクリーンタイムと体力合計点の関係

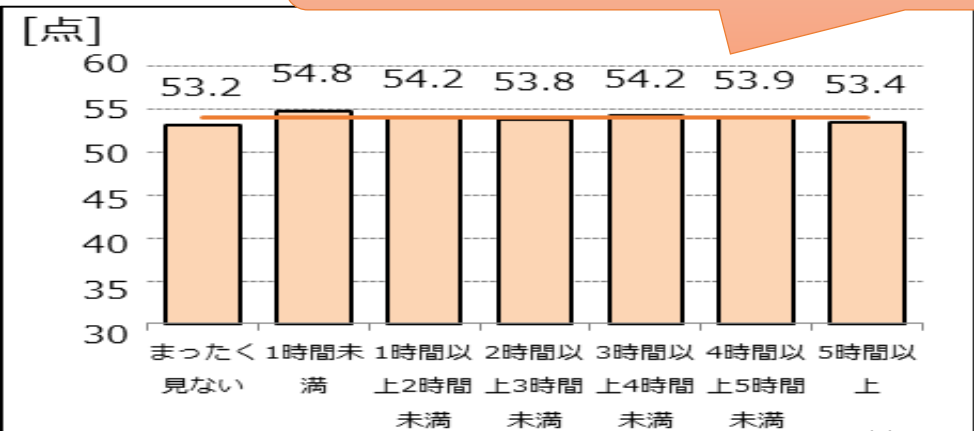
小5 男子

視聴時間が長いほど体力合計点が低下



小5 女子

男子と比較して大きな差はないが、4時間以上だと確実に低下



みやぎの子どもの体力・運動能力充実プロジェクト事業

- ① 子供のための体力・運動能力拡充合同推進会議
- ② 宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査
- ③ 体力・運動能力に関する研修会
- ④ みやぎっ子元気アップ通信
- ⑤ 「Web運動広場」の開催
- ⑥ 各種通知の発行

主な取組成果

- ・ 調査分析による変化の把握
- ・ 記録カードの活用による意識啓発
- ・ Web運動広場を通じた意欲喚起や結果の向上など



12年通して使用する記録カード



Web運動広場への取組

体力・地域スポーツ力向上推進事業

県内の3市町村で企業や大学と連携した授業づくり、休み時間の運動遊び、ICTを活用した部活動支援を実施

主な取組成果

- ・ 遊びの提供や授業支援による運動への意識の高揚と体力向上
- ・ ICTを活用した部活動支援による技能の向上など



休み時間の運動イベント開催



ライブ配信による大学の指導者との会議

課題

- コロナ禍の影響もあるとはいえ、様々な施策を行っても**体力低下に歯止めがかかっていない**。
- 調査結果や記録カードについても、**より詳細な分析やデジタル化による活用促進**が求められる。
- 効果が認められるWeb運動広場の事業拡大など、**好事例を横展開する**必要がある。

組織的な取組をより強く促していくことが必要

課題解決に向け必要なこと

市町村や学校単位での組織的な体力・運動能力向上の取組体制の構築

教員の体力・運動能力向上に対する意識の高揚と、体育の指導力の向上

児童・生徒が楽しみながら体力を高めることができる運動機会の創出

解決に向けた取組イメージ

- 1 市町村教育委員会や学校への巡回訪問による直接指導
- 2 体力・運動能力調査記録をもとにした実態把握と手立ての作成・報告の依頼と、学校の実情に即した課題解決に向けての指導助言

- 1 各種研修会の実施
- 2 県全体の体力・運動能力向上に向けた会議を開催
- 3 体力・運動能力調査の結果を基に各市町村や学校ごとの分析を行い、体力課題を明確化

- 1 Web上に記録を入力し、県内の学校と競い合う大会の開催
- 2 Web運動広場の参加対象校・メニューを拡大

期待される効果

- 体力課題が共有され、多くの学校や市町村で組織的な体力向上の取組が展開

- 体力向上に向けた効果的な学習内容の授業の展開
- 調査結果をもとに、多くの学校で体力課題の解決に向けた取組を実施

- 共通の目標をもって体力向上に取り組む教師集団の育成
- 仲間と協力し合いながら楽しく運動に取り組む生徒の増加

組織的な取組を強化し、子供たちの体力低下に歯止めをかける。体力・運動能力の向上、さらには健康生活全般への取組を推進する。